

学校教育課だより

かけはし



総則を読む

教育監兼学校教育課長兼教育指導センター所長

勝亦 重夫

我が家の庭に、松が何本かあります。当然、生き物ですから年々幹は成長し、枝が伸びてきます。渋々、定期的に剪定をしなければなりません。どのように剪定するか悩むところです。

剪定をしながら、松の剪定をする職人さんから聞いた話を思い出しました。その方は、じっくりと松全体を見ながら剪定をされる方です。

知らない人は、「そんなに時間をかけないで枝をどんどん切ればいい。」というけれど、そう簡単なものではない。枝を切ったその後、どんな形に伸びていくか予想しなければ

ならない。この予想するのが難しいんだ。しよっちゅう全体を見ているのは、全体としてどんな形になるのかなということを考えるために見ているんだ。話はこんな内容だったと思います。

確かに剪定をした後に、枝がどのように伸びていくか予想することは難しいことです。ましてや、一度切つてしまえば取り返しがつきません。ですからじっくりと考えて最善と思われる判断をするしかありません。

私たちが携わっている教育も、松の剪定と通じるものがあります。日頃から子供たち

学校教育課だより
「かけはし」
【第 7 号】
平成 29 年
11 月 30 日発行
御殿場市教育委員会
学校教育課

んでいるでしょうか。

次期学習指導要領についての情報は数多く出されていて「キーワード」を中心にいろいろなことが耳に入ってきていると思います。この時期に大事なことは、「総則」を読み返し、学習指導要領の全体像をもつて一度確認することです。

「総則」は次のような構成をしています。

- 第一 小（中）学校教育の基本と教育課程の役割
- 第二 教育課程の編成
- 第三 教育課程の実施と学習評価
- 第四 児童（生徒）の発達の支援
- 第五 学校運営上の留意事項
- 第六 道徳教育に関する配慮事項

現行の学習指導要領に比べ、内容が増え、具体的なものになっています。

第一では、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して児童・生徒に生きる力を身に付けることが求められています。

第二では、教科横断的な視点に立った資質・能力の育成を図る教育課程の編成や子供の育ちを受け止める学校間接

続について述べられています。

第三では、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の具体を示しています。また、学習評価についての配慮について触れられています。

第四では、個々の児童・生徒の発達に則した指導を充実させる必要性や、特別な配慮が必要な児童・生徒の特別支援学級による指導や個別の教育支援計画や個別の指導計画の活用等が記載されています。

第五では、各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントの確立と学校評価との関連について述べています。

第六では、道徳教育を進めるに当たつての配慮事項が具体的に書かれています。

確認する方法としてはいろいろとありますが、できれば校内研修に位置付け、職員全体で内容について理解を深めていただきたいと思います。その際に、関係する分掌長が説明するだけではなく、グループ活動を取り入れるなど、能動的な取組を期待しています。



新教育委員 就任の挨拶

大西 孝明 様

この度、御殿場市教育委員
会委員に就任させていただき
ました、大西孝明です。

現在、富士見原区の区長二
年目で自治区の運営をしてお
り、更に教育委員という重責
を感じております。

社会人になるための教育環
境を地域で作りに上げていくこ
とは、大変重要なことと思
います。また、思いやりの心は、
「助け合いの心」「ボランティア
の心」を身に付けられる「共
同作業」や「チームワーク」
から形成されていきます。こ
のことから、サークル活動等
は自分自身を発見する重要な
活動と思います。

「教えてくれない」ではな
く、自分で開拓する自主性こ
そ真の匠になれると思います。
子供たちの健全な成長のため
には、より良い環境を作り上
げていく中で、『無気力・無感
動・無関心』この様な心境に
成らないためにも、文化の充
実について、積極的に取り組
んでいきたいと思っています。
今後とも宜しく願います。



新規不登校児童生徒の抑制を目指して

市指定研究「西中校区園・
学校一貫教育研究」並びに国
立教育政策研究所「魅力ある
学校づくり調査研究事業」に
西中校区三校四園(西中学校
玉穂小学校、印野小学校、玉
穂幼稚園、玉穂第一保育園、
玉穂第二保育園、印野こども
園)が平成二十八年より取
り組んでいます。本研究の中
間発表会が、十月三十一日に
印野小学校で開催されました。
本市は、各校・園の取組に
より、近年落ち着いた教育活
動が行われており、問題行動
件数は減少傾向にあります。
しかし、今まで学校に來られ
ていたのに、急に学校に來ら
れなくなる「新規不登校者数」
が増加しています。
西中校区三校で調査をした
ところ、「主体的に授業に取り
組んでいる」という質問に、

学び合いを実感する授業～生徒指導が機能～

教育指導センター指導員 岩田 京子



「深い学び」を構築するためには授業に着目するだけでなく、授業を行う土台である学級づくりも大切です。生徒指導が機能する授業では、子供たちは互いを認め合い安心して学習することができます。

御殿場小学校の芳賀夏希先生、6年3組算数「立体の体積」の授業を紹介します。

提示された立体(複合図形)について「どうやったら体積が求められるだろうか」を考えます。各々に図形プリントが配られると、早速ひそひそと和やかな相談の声が聞こえます。担任から「作戦会議はなしだよ」と声がかかり、まずは個の追究の時間です。

次は全体学習です。『Aさんが求積の式を発表する→Bさんが考え方の説明をする→理解できない人は立つ→Cさんが説明をする→理解できた人は座る』この流れが最後の一人が座るまで、当たり前のように続きます。友だちの考えに自分の考えを重ねていく説明は、黒板や図を用いてどんどんと具体的かつ簡潔になっていきました。

自分の考えを説明し始めたDさんが途中で混乱してしまう状況が発生しました。「助けてくれる人?」と聞く教師。ここまではよく見られる光景です。ところが、指名されたEさんは前に出てくると、全体ではなくDさんと話し始めます。黒板前での二人のやり取りが終わるとEさんは席に戻り、Dさんは改めて自分の考えを説明します。発表者はあくまでDさんでした。

まず課題に対する自分の考えを持って授業に臨む(自己決定)。友だちの考えを受容的に聞き取り、誰ひとり置き去りにしないで一緒に問題を解決していく(共感的人間関係)。自分の考えを安心して最後まで堂々と示すことができる(自己存在感)。生徒指導の三機能が具体として表れている授業でした。

共感的で温かな学級を土台にしてこそ、学びの厳しさを伴う真の「学び合い」が可能となり「深い学び」が得られるのだと思います。

「当てはまる」と回答する児童生徒の割合が低いことがわかりました。そこで、「子供たちが主体的に取り組む授業を継続的に進めることで、授業が楽しくなり、学校に魅力を感じ、新規不登校が減少するだろう」という研究仮説を立てました。

意識調査で、「授業に主体的に取り組んでいるか」の質問に「やや当てはまる」と回答する児童生徒が、どの学年に

も約六割います。研究では、この子供たちにスポットを当てます。普段手がかからないけれど目立たない静かな子供たちです。新規不登校はどの子供からも生まれると認識し、目立つ子供に関わりつつも、大多数の静かな子供たちを主人公にして、この子供たちを掘り起こす場や仕掛けの工夫を積極的に進めるとともに、主体的な場面を認める価値付けの言葉を掛け続けます。この

ことにより、「やや当てはまる」から「当てはまる」に移動する児童生徒が増え、逆に不登校児童生徒が減ることを目指しました。
研究が進むにつれ、意識調査の数値が増減を繰り返しつつも向上し、逆に新規不登校児童生徒数が減少しているなどの成果が表れてきています。
【指導主事 石田善正】